

『リマ・トウジュ・リマ・トウジュ・トウジュ』



魔法の言葉に
託したい

こまつ あやこ／著
講談社
(JFコ)



帰国子女の沙弥は、周りに溶け込もうと努力していた。そんなとき、変わり者と噂の先輩から「吟行」に誘われる。短歌を詠みながら散歩するのは気持ちいいけど、先輩と一緒にいるところを見られたらクラスで浮いちゃうんじゃないか…。沙弥は迷いながらも、タンカード（短歌専用カード）を受け取った。でもなんでいきなり No.2？

『スピリットベアにふれた島』



踊れ、味わえ、
人生を懸けて

ベン・マイケルセン／作
原田 勝／訳
鈴木出版
(JFマ)

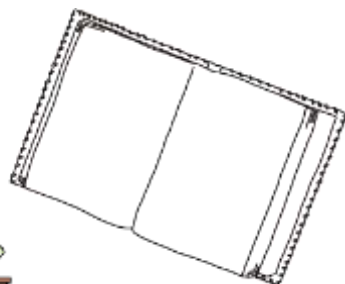


傷害事件を起こしたコールは、加害者を罰するためではなく立ち直らせるための制度「サークル・ジャスティス」によって、無人島での生活を課された。誰からも見捨てられて島に追放されたと感じた彼は、怒りに任せて小屋に火をつける。脱走に失敗して孤独感に苛まれる彼の前に姿を現したのは、ここにはいないはずのスピリットベアだった。

冬のイベント★参加者募集！

ビブリオバトル

日 時 12月24日(日)・1月28日(日) 15:00~16:00
内 容 1人5分間で、おすすめの本を紹介し合うゲーム
場 所 狭山台図書館 2階 視聴覚室
対 象 小学生以上
申 込 不要
持ち物 おすすめの本1冊



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

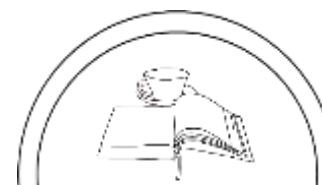
狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



よむぞう タイムズ
YOMUZO TIMES
FOR TEENS
第2号



自分のイスの置きどころ

お月さまみたいだっ
思ってくれるひと！



条件は
ぼくたちのこと

予約はこちら



『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルバス／作 櫛田 理絵／訳 徳間書店 (JSア)

1940年、第二次世界大戦下のロンドン。ピアース家の三兄妹は早くに両親を亡くし、厳格な祖母のもとでお金はあるが愛情はない暮らしを送っていた。親代わりだった祖母が亡くなると、兄妹で一緒にいるためには、新たな保護者を探さなくてはならない。三人は学童疎開に参加し、理想の家族、居場所を探し始めることにした。

狭山市立図書館のティーンズ担当が10代のみなさんにおすすめするブックリストです。
第2号 Menu テーマ 「自分のイスの置きどころ」

2023年12月15日発行



B
O
O
K

M
E
N
U

『あした、弁当を作る。』



反抗期？成長期？

ひこ・田中／著
講談社
(JF ヒ)



母親が「いってらっしゃい」と言って背中を触ることも、手作りの弁当も、急にゾクッとするようになった。だけど父が言うには、それらを拒むのは母の生きがいを奪うことになるらしい。それでも、自分のことは自分でやりたい。だから両親がどんなに反対しても、弁当を作ると決めた。その何がいけないんだ。

『おやすみなさいトムさん』



ここは安心して
眠れる場所

ミシェル・マゴリアン／作
中村 妙子／訳
評論社
(JF マ))



第二次世界大戦中、トムさんの家に疎開してきたウィリアム。母親から虐待されていた彼と妻子を亡くしたトムさんは、家族のように過ごすなかで、互いに癒やされている。ところが、母親の病気を知らせる手紙が届き、ウィリアムはロンドンに戻ることに。彼を助けるためにトムさんが取った行動とは。

『ソロモンの白いキツネ』



ぼくの居場所は
他にある！

ジャッキー・モリス／著
千葉 茂樹／訳
あすなろ書房(JS モ)



シアトルの港に、突然あらわれた白いキツネ。都会に上手く馴染めない少年ソルは一人ぼっちのキツネに親近感を感じていた。ある日、キツネが捕まったという知らせを聞くと、ソルは父に思いをぶつける。「父さん、お願いだから僕とこの子をぶるさにつれて行って！」

『目で見ることばで話をさせて』



私を助けて！

アン・クレア・レゾット／作
横山 和江／訳
岩波書店 (JF レ)



かつて、ろう者と聴者がごく当たり前に手話を使い、会話する島があった。少女メアリーも、ろう者だが不便を感じることなく暮らしていた。あるとき、若い男の研究者が島を訪れて住人にろう者が多い原因を調査するという。数日後、彼はメアリーを連れ、行方をくらました。男の真の目的とは？

『いい人ランキング』



作戦会議を
始めようか

吉野 万理子／著
あすなろ書房 (JF ヨ)



悪口を言わない、サボらない、頼まれたらなんでもやる桃。ところが、クラスで行われた「いい人ランキング」で1位になったことをきっかけに、そのポジションが揺らぎ始める。「いい人」でいるのって、いいことじゃないの？ 桃は助っ人たちの力を借りて、自分らしくいるための作戦に出る。

『明日をさがす旅故郷を追われた子どもたち』



未来のために、
進むしかない

アラン・グラッツ／作
さくま ゆみこ／訳
福音館書店
(JC グ)



1939年のドイツ、1994年のキューバ、2015年のシリアを舞台に、それぞれの故郷を追われた子どもたちが、希望を捨てずに進んだ旅路を描く。戦争や社会の情勢に巻き込まれた彼らは、どこにたどり着くのだろうか。これは実際の出来事に基づいた物語。今でも世界には、彼らのような子どもたちがいる。

『アンジュールある犬の物語』



言葉はいらない

ガブリエル・バンサン／作
BL出版
(EF パ)



表紙に描かれている犬、アンジュール。こちらを見て何かを言いたそうです。文字がない絵本ですが、読めば読むほど心に何かを訴えかけてくる。ページをめくってアンジュールの声を聞いてみませんか？

『虹色のパズル』



えっ、この人が
わたしの叔父さん！？

天川 栄人／作
トミイ マサコ／画
文研出版
(JF テ)



普通の子ってなんだろう？ 琴子は友達に合わせて生活することに日々息苦しさを感じていた。ある日、親戚の叔父さんの家に泊まることになり、職場を訪れると、出てきたのは真っ赤なヒールが良く似合うド派手な女性？ モノクロだった琴子の世界が今、カラフルに変わり始める。